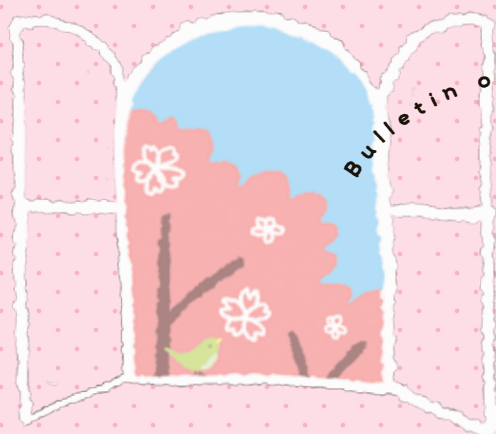


図書館だより



Bulletin of the Hokkai-Gakuen
University Library



ほんのむし

1

vol.39

北海学園大学附属図書館報
第39巻1号(通巻216号)
2017-4-1

特集①

こころのことわりを伝えるアイデア
—高校での模擬講義を通して—

経営学部 講師 古谷 嘉一郎

特集②

聖書的イメージの力 —蛇と楽園—

人文学部 准教授 佐藤 貴史

古書店めぐり

▶南陽堂書店
▶並樹書店

おすすめ図書

図書館職員 川田 裕之
図書館職員 中井 龍

「MyLibrary」を使って自分の
読みたい本を申し込もう/
図書館からのお知らせ/
編集後記

古書店めぐり

札幌にある古書店をご紹介します！



南陽堂書店

札幌市北区北8条西5丁目 TAKAGIビル1・2F

☎ 011-716-7537

🕒 10:00～19:00 休 日曜日・祝日



Nanyodo-shoten

札幌駅北口西側を出て、西5丁目樽川通りを北に5分ほど歩くと、南陽堂書店がある。昭和5年創業。札幌市内の老舗古書店の一つである。元々は先々が北7条西5丁目店を始めたが、国鉄の高架建設のため現在の場所に移転した。インタビュ当日は3代目店主の高木秀一氏が応対してくださった。お店はインターネット販売と店舗販売が中心で、1Fには北方関係資料・一般古書・郷土史・北海道関連の絵葉書等があり、2Fには全国各地から収集した貴重な昆虫関連図書資料が並んでいた。全国的に見ても南陽堂書店が取り扱う昆虫関連図書の種類は豊富とのこと。

「昔のお客さんは自分が欲しい本だけでなく、それに関連する他の分野の本も買っていく人が多かった。今はインターネットの時代だから、事前に欲しい本の情報を調べてからお店に来て、欲しい本だけを探す。店に在庫があれば、ネット書店で購入する。これはニーズの変化だから仕方ないこと。しかし、

古書店はネット書店等と違い、一般書店で手に入らない高品質の図書を販売しており、実際に手にとって本の中身を見ることが出来る。場合によってはネット書店より安く購入できる場合もある。店主の高木氏は語る。確かにネット書店の急増で手軽に本を購入できる時代になった。しかし、その一方で、消費者自身が物の価値や品質などを見抜く力が問われるようになったと感じる。ネット書店だけでなく、古書店にも足を運んで商品の相場や品質の違いを実際に目で見て、自身の消費能力を養ってみるのはどうだろう。本に関する知識だけでなく、消費者力もつくかもしれない。



地下鉄東西線
西18丁目駅
1番出口

西20丁目通

北海道芸術高等学校
札幌サテライトキャンパス
北海道歯科
衛生士専門学校



Namiki-shoten

並樹書店

札幌市中央区大通西19丁目1-29 シャンボール第2ビル1F

☎ 011-611-6353 🕒 10:00～19:00 休 日曜日・祝日

地下鉄東西線の西18丁目駅から歩いて2分ほどのところに並樹書店がある。昭和16年創業。札幌市内の老舗古書店の一つである。元々は文学書好きだった先代が南5条西3丁目店を始めたが、当時のススキノは火事も多く、酔っ払い等も多かった。商売に集中するため、昭和63年に現在の場所に移転した。インタビュ当日は2代目店主の瀬木幸彦氏が応対してくださった。お店はインターネット販売と店舗販売が中心で、北方関係資料・文学全集・郷土史・北海道関連の絵葉書等、店主の瀬木氏が厳選した貴重な限定本・資料が所狭しと並んでいた。個人的に面白さを感じたのは道内の各市町村の要覧や昔の企業の大福帳(売買の勘定を記す元帳)である。読んでみるとなんだかその時代の情景が目

に浮かぶようであった。「自分の知らない情報を教えてくれるお客さんはいいお客さん。昔は本を買っても買わなくてもお客さんと一日中いろいろな話をし、そこから勉強になったことがたくさんあった。今のお客さんは欲しいものだけ買ったらすぐ帰ってしまう。それぞれの古書店で収集している図書の種類や店主の情報量に特徴がある。それは店主との交流やじっくり店内を見て回ることから分かる。その特徴の違いを知ることとも古書店巡りの楽しさの一つだと思ふ」と店主の瀬木氏は語る。単に本を探しに古書店へ行くだけでなく、その店主と交流してみるのはどうだろう。もしかしたら、知的好奇心をそそるような新たな発見があるかもしれない。





おすすめ図書

Recommended Books

エベレスト登頂請負い業

村口徳行 著 (山と溪谷社・2011)

図書館職員
かわ た ひろ ゆき
川田 裕之

エベレスト。言わずと知れた標高8848メートル、世界最高峰の山だ。本書はエベレストを舞台に「趣味」ではなく、「仕事」としての登山について書かれた本である。

著者の職業はカメラマンだが、単独撮影やクルーに同行するだけではなく、本書のタイトルにもあるように登山者をバックアップし、登頂までをサポートする「登頂請負い」人なのだ。当然「仕事」なので無事に「客」を頂上まで上げなくてはならないし、テレビ局が絡む場合は放送に使用する映像も撮影しなければならない。エベレスト登頂の番組を制作するには、莫大な予算や多くの人、時間が費やされる。その現場で事故を含む失敗は許されず、もしそのような事態が起これば、フリーランスで活動している著者には破滅的だろう。しかし、エベレストはデスゾーンを含む過酷な環境であり、状況によっては死と隣り合わせの世界でもあるのだ。

本書は八章からなり、野口健、三浦雄一郎等との登頂が記されている。また、それぞれの章ごとにタクティクス(行動表)が記載されているので、これも併せて読むとより行程の全容を把握することができる。

個人的に好きな章は、第二章の「チョモランマの渚」。エベレストは、かつて海中にあったが大陸同士の衝突で隆起し形成された。このことから海中生物の化石を求めてエベレストに登る、というテレビ特番が組まれ、著者がその撮影とスタッフのコーディネートを請負った話だ。高高度の中で化石を探すのだが、中々見つけないことができない。しかし登頂も含めての番組なので、登りつつ、探しつつ、撮影しつつ、の作業となる。はたして世界最高所の「海」で、その痕跡を探し出すことはできるのか…。日本最多のエベレスト登頂回数を持つプロフェッショナルの記録、このような世界もあるのか、と驚かされた一冊である。

奇跡のリンゴ

「絶対不可能」を覆した農家 木村秋則の記録

石川拓治 著 (幻冬舎・2008)

図書館職員
なか い りょう
中井 龍

リンゴ栽培において農薬散布は絶対不可欠である。この常識を覆した男がいる。青森県弘前市(旧岩木町)の農家である木村秋則氏だ。この本は、世界で初めて無農薬のリンゴ栽培に成功した木村氏の長く壮絶な戦いの記録である。リンゴは病害虫や疫病に非常に弱い。実が大きく、形の良い売れるリンゴを栽培するためには定期的に農薬や化学肥料を使用しなくてはならなかった。

木村氏も当初は売れるリンゴを栽培するため、硫酸銅と生石灰を混ぜた農薬を使用していた。しかし、散布の度に農薬に過敏な体質の妻が体調を崩してしまふことから、人体への害が少ない栽培方法を模索していたところ、書店で一冊の本と出会う。それは福岡正信氏の「自然農法・わら一本の革命」であった。手を加えず自然のままに育てる「何もしない」農法について書かれていたのである。これに加え、戦時下の物資の少ない中前述の農法同様に作物を育てていた養父の実体験もあり、ついにリンゴの無農薬栽培を決意する。

無農薬栽培に切り替えた当初はリンゴの花も咲き、順調に進むかのように思われた。ところがどっこい、状況は一転。病害虫や斑点落葉病などに苦しめられ、あらゆる対処法を試せども効果は今ひとつ。収穫量も年々減り、ついにはゼロに。娘に消しゴム一つさえも買えないほど生活は困窮し、周囲からは「カマドケシ」(津軽弁で「家族を路頭に迷わせる馬鹿者、破産者」の意)という最悪な渾名で呼ばれ、無視される。生活のため、出稼ぎに行きながら懸命に挑戦を続けるも、心身ともに疲れ切り、とうとう命を絶とうと夜の岩木山に入り、ドングリの木にロープをかけようとしたところ、ふと目に入った足元の土の肥沃さと健康に育った植物に目を奪われる。病害虫駆除ばかりに躍りになっていたが、答えは「土」づくりにあったのだ。この日を境に、限りなく自然と同じ環境に近づけた土壌作りを目指し、再び試行錯誤の日々を続ける。極限の状態に置かれながらも、絶対にあきらめずリンゴの無農薬栽培に挑み続ける木村氏の芯の強さと、それを支える家族・友人・知人などの温かい優しさに感銘を受けた一冊である。

こころのこわりを 伝えるアイデア

経営学部 講師
ふるたに かいちろう
古谷 嘉一郎

— 高校での模擬講義を通して —



心

心理学という言葉を知ると、皆さんはどのようなイメージを連想しますか？実際に初学者の学生や、講義でお会いする生徒に聞くと、「人を操るテクニク」「モテるための方法」「カウンセリング」「記憶術」「人の心を読む方法」など、彼ら彼女らはいろいろなイメージを話してくれます。

このように、心理学という言葉から、皆さんそれぞれイメージが浮かんでくると思いますが、曖昧でつかみどころがないような気がします。他の〇〇学と比較して、扱う対象がぼやけているような気がします（もちろんすべての学問が明確ってわけではないですよ）。そもそも、対象となる「心」が目に見えないものであるため、人に心なんてあるのかといったような話になることも…。そのため、高校生にとって、心理学は「なんか魅力的だけど、よくわからない」という学問といえるかもしれません。また、進学して大学の講義を受講するま

で、いや、受講してもよくわからない学問であるかもしれません。まあ、事実、僕も心理学よくわからないなあとき折折思いながら、心理学をやっています。

そういった、「心理学よくわからないなあ」という生徒向けに、心理学者は模擬講義を行います。講義を行うことで、彼らに心理学って何だろうかということとを伝えるのです。もちろん限られた時間内でしか話すことはできませんから、「どのネタがよいかなあ」と考えて絞り込みの作業をします。そして、模擬講義の当日、高校生の前に立ち、自信满满に「私、心理学のことよく知ってるよ」という顔をして、彼ら彼女らに話をするのです。

もちろん、心理学とは何かということとを厳密に話すわけではありません。おそらく、それを話し始めると、とても長くなってしまいます。また、それをいい出せば心理学史の話やなにやらでなんのことかわけがわからなくなり、聞いてくれる生徒さんは「ZZZ」となる

ことうけあいです。

では、模擬講義で何を話すのかといえますと、心理学は日々の生活と密接に関連している学問であることを中心に話します。もちろん、異論がある方もおられるでしょう。しかし、まずは、心理学に興味をもってもらいたい、それが私の思いです。その思いを胸に秘め、私は吹雪の中、高校に向かうのです（この原稿の執筆は、実際吹雪の中、高校に模擬講義に行った後に行われました。その余韻が少し残っています）。

今回は、この模擬講義で使うネタを紹介したいと思います。この講義、基本的にはクイズ形式で、生徒の皆さんとの対話を通して行っています。

■見えないゴリラ

生徒の皆さんに動画を見てもらいました。まず、「白シャツの人たちが何回パスをしているか数えてください」と指示が出ました。そして、本編が流れました。本編の内容は、白シャツの人3名と黒シャツの人3名が動きながら、同じ色のシャツの人たちにバスケットボールをパスしあうものでした。ビデオ終了後、動画のテロップでパスの回数を質問され、生徒の皆さんはパスの回数を答えました。動画は続き、パスの回数の正答が示されました。そして、動画に「ところで、ゴリラ見えた？」と質問が続きました。この動画、実は、シャツ

を着た人たちがパスをしあっている中、ゴリラの着ぐるみを着た人が登場し、カメラに向かって胸をたたいて立ち去っていたのです。

最後の質問で、生徒の皆さんの何人かは、「え？」とびっくりします。ゴリラに気づかなかった人がいるのです。ここで示したい事柄は「人の注意力は有限であり、ちょっとしたことでその限界になってしまふ」ということなのです。ぜひ興味のある方は見ていただきたいと思います（<http://www.theinvisiblegorilla.com/videos.html>）。ただ、ここまで話を知ってしまうと、ゴリラがいることに注意を向けてしまふようになりまふ。そのため、ゴリラを見落とすことはなくなってしまうのです。友達やご家族に見せるといいかもしれませんね。興味のある方は、『錯覚の科学』（文藝春秋）を図書館で借りてみてください。

■思い込みのクイズ

以下の文章を読んでもらい、クイズに答えます。「世界屈指の外科医で、神の手を持つといわれた木村医師。木村医師はヘビースモーカーで、オーブンカーを乗り回している。木村医師の息子があるとき交通事故で病院に担ぎ込まれた。警察が身元を調べ、木村医師のところへ電話をした。『あなたの息子さん事故で病院に担ぎ込まれたのですが、あなたはこの子の父親ですか？』

と聞くと、木村医師は『違います』と答えた。『では、この子はあなたの息子さんですか?』と聞くと、『そうです』と木村医師は答えた。それでは、木村医師とその息子との関係はどのようなものであったのだろうか? さて、いかがですか?

このクイズで戸惑った人は、思い込みの罠に引っかかっています。『外科医』『ヘビースモーカー』『オープンカー』を乗り回すといった情報から、木村医師が男性であるかと思いきや、このクイズで戸惑ってしまうのです。解答は「木村医師は息子のお母さん」でした。人は、現れる情報をもとに判断を行うのですが、すべての情報を丁寧に判断していると疲れてしまいます。そのため、簡便な判断ができるように外科医＝男性、ヘビースモーカー＝男性といったような、認知的枠組み(スキーマ)を作っています。このスキーマをうまく利用したクイズなのです。

私たちは、物事を見て判断する際、スキーマを頼る傾向にあります。もちろん、精密に判断をしなければならぬときは、スキーマを使わず物事を丁寧に観察します。このように、人の判断のメカニズムは合理的になっていることを説明していきます。こういった思い込みについて知りたい人は『ステレオタイプ』の社会心理学・偏見の解消に向

けて『サイエンス社』をどうぞ。

■ 文脈効果

以下の図を見てく
ださい。この図に
は、文字っぽい
ものが5つ並
んでいます。

縦に並んでいる
3つの文字は
どう読めるでしょう
か。また、横に並んでいる3つの文字は
どう読めるでしょうか。おそらく、前者
はA、B、C、後者は12、13、14と読める
のではないのでしょうか。ところで、中央
の文字ははたしてBなのでしょうか、
それとも13なのでしょう。おそらく、
「どちらにも読める」と思います。



人は、周りの状況と記憶を照らし合
わせながら生活をしており、周りの状
況に応じて、必要な記憶を取り出し
ます。例えば縦に並んでいる文字を読む
際、中央の文字はA、Cの間にあること
から、Bと解釈するのです。横に並んで
いる場合は、中央の文字は12と14の間
にあることから13と解釈するのです。
このように、周りの状況によって、意味
が左右される効果を文脈効果といいま
す。

この効果は日々の生活でもよくあり
ます。例えば「ノリをとって」というと
き、ご飯を食べているときならば、海苔

になるでしょう。また、工作をしている
ときであれば糊になります。このよう
に、文脈効果は日々の生活と密接に関
連しているのです。興味を持たれた方
は、『心と社会：認知社会心理学への招
待』(東京大学出版会)をどうぞ。なお、
閉架図書なので、カウンターで受付し
てください。

■ 社会的手抜き

「一人の人が壁につながっている綱を
引っ張ります。この力を100%とした場合、
8人でこの綱を引っ張った場合は、一人
あたり何%の力をだして引っ張ると思
いますか」というクイズを考えてみましょ
う。4択にしましょうか(①みんな協力
してくれるから嬉しくて120%の力を出
す、②みんな協力してくれるから、バレン
ないように手抜きして70%の力を出す、③
みんな協力してくれるだろうから、手を
抜いて50%の力を出す、④みんな協力し
てくれるだろうから、全く力を出さない、
0%)。さて、あなたならどうしますか?

リングelmanが行った実験によると、
③の約50%まで力を減少させるような
のです。この実験のもととなった論文を
見ると、1人で綱引きをした時に綱を引
く力を100%とすると、2人では一人あた
り93%、3人では85%、6人では63%。そ
して、8人では49%と減少してしまいま
した。

こうなった理由として、集団の人数が

増えていくと、他の人が何とかしてくれ
るという手抜きの心理が働いてしまうの
ではないかと考えられています。加え
て、人数が増えるほど責任感が分散され
てしまい、その結果、更に手を抜いてし
まうわけです。

対策としては、集団メンバーそれぞれ
の貢献を明示できるようにする、課題が
集団メンバーそれぞれにとって魅力的で
あるものにする、集団メンバーそれぞれ
に自身の貢献評価を行う機会を作る、集
団をメンバーにとって魅力的なものにす
るなど色々あります。仮に学生へのレポ
ート課題という状況であれば、私は1つ
目の貢献度明示を学生に試みるかもしれ
ません。日本における社会的な手抜きのプ
ロが書いた本をおすすめしておきます。
『人はなぜ集団になると怠けるのか：社
会的な手抜きの心理学』(中公新書)です。



つほど、講義ネタを紹介し
ました。いかがでしたか?
こころのこわりに興味を
持たれた方は、ぜひ図書館の分類番号140
番台(心理学)、360番台(社会問題ですが、
私の専門である社会心理学も入っていま
す)の書架にお進みください。いろいろ
と発見できると思いますよ。

聖書的

イメージの力

蛇と楽園

人文学部 准教授

佐藤 貴史
さとう たかし

学

生の論文を指導していると、わたしがまったく知らない内容を彼女／彼たちから教えてもらうことがある。だからこそ、わたしは学生に「しっかりと論文は教員にとっても勉強になるので、そのようなものを目指してほしい」と自分勝手な要求をすることになっている。この経験から二つほど、聖書的イメージに関わる話をしてみたい。

■人とその妻の物語

『旧約聖書』の「創世記」第二章には有名な堕罪の物語が書かれている。おそらく詳しい内容は知らずとも、アダムとエバという名前(?)はどこかで聞いたことがあるのではないだろうか。まず簡単に物語を振り返っておこう。しかし、よく知られたアダムとエバは出てこない。原典に即して考えれば、人と女(妻)が適切である。ここでは人がアダムで、女(妻)がエバだと考えてもらってよいだろう(「創世記」か

らの引用は、岩波書店の旧約聖書翻訳委員会訳に依拠している)。

主なる神はみずから大地の塵で造った人を連れてきて、エデンの園に住まわせた。そこには生命の木と善悪を知る木が生えていた。神は人に対してどの木からも実を取って食べてよいが、善悪を知る木からだけは取って食べてはいけない。「これから取って食べる日、あなたは必ずや死ぬであろう」と命じた。また、人が一人であるのはよくないと考え、神はさまざまな獣や鳥を造るが、どれも人の助けにはならなかった。神は人を深く眠らせ、彼の肋骨から女(妻)を造った。二人は裸であつたが、互いに恥じることはなかった。

エデンの園には獣のなかでもっとも賢い蛇もいた。蛇



▲旧約聖書の本文(ヘブライ語)

は妻に対して、園の中央にある善悪を知る木から実を取るように唆す。妻は木の実を取って食べてしまい、それを人にも与えた。そのとき、二人の目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。

その後、身を隠していた二人は、神から「あなたはどこか」と問われるが、「わたしはここにいます」という正しい応答ができずに、犯した罪の責任転嫁をするのであつた。人は妻に、妻は蛇に、蛇を造つたのは神であるから結局のところ責任は神に押しつけられる——これは古代のお伽噺で、われわれとは無関係だと、どうしていえるようか。これほどリアルで恐ろしい人間の描写を、わたしはほかに知らない。

神は蛇に呪いの言葉をかけ、人とその妻には労働と身こもりの苦痛が増し加えられた。神は彼らに皮衣を着せ、エデンの園から追放したのであつた。

■蛇のイメージ——悪と癒し

「創世記」第二章の物語は、人々にさまざまなイメージを喚起してきた。きわだって目を引くのは蛇の存在だろう。物理的な力を一切用いずに、蛇はただ言葉だけで人とその妻を誘惑し、神の命令に背かせたのだから。その意味では、言葉は人間の生き方をいとまたやすく変えてしまう。

「死ぬといけない」と動揺する妻に対

して、蛇はいう。「けっして死ぬことはないよ。実はね、あなたがたがそれを食べる日、あなたがたの目が開いて、あなたがたが神のように善悪を知るようになる、と神は知っておいでなのです」。こうした一連のやりとりだけでも、蛇に好ましい感情を抱くことは難しいだろう。

学生Aさんは、不気味な蛇の聖書的イメージを相対化する論文を書いてくれた。キリスト教とは明らかに異なるヨーロッパの民間伝承を集めながら、蛇が大衆のなかで誇れる存在として見られていたことが論じられていた。しかし、同時に蛇にまつわる民間伝承がキリスト教化されていく過程も描かれており、抽象的な思想を研究してきたわたしにとっては非常に新鮮な経験だった。

Aさんの論文に導かれ、わたしも「創世記」以外でも『旧約聖書』に蛇は出てくるのか調べてみた。アビ・ヴァールブ



▲旧約聖書

ルクの『蛇儀礼』を読むと、『民数記』のなかに青銅製の蛇に関する話があることを知った。神の怒りによって蛇に咬まれたイスラエルの民が、その青銅製の蛇を仰ぎ見ると命を得たという。『旧約聖書』のなかに残る異教的要素ともいえるし、あるいは動物崇拜の痕跡とも解釈できる。蛇が悪と癒しという二つの相反する力をもった存在として表現されていることに深い興味をおぼえた。

■楽園のイメージ——白紙のスクリーンとしてのアメリカ

神が造った人はエデンの園に連れてこられたと、聖書は書いている。一般的にエデンの園は楽園として受け取れることが多いが、実は必ずしもそうとはいえない。なぜなら聖書は神が人をそこに住ませた理由を、「これに仕え、これを守るためである」と書いており、そこには労働があったことが示唆されているからである。しかし、このような厳密な読解とは別に、エデンの園は楽園のように描写され、人々は現実世界のなかにエデンの園を探してきたのである。

アメリカの宗教社会学者ロバート・N・ペラーによれば、最初にやってきた第一世代のヨーロッパ人にとってアメリカは「神の手から与えられたままといい意味での新しさ」、つまり楽園として理解された。もちろん、この自分勝手

な認識が後に大きな問題を引き起こすことになるのだが、そんなことを深く考える者もいなかったのかもしれない。ペラーは、「キリスト教的聖書の伝統」のなかでアメリカはまるで「白紙のスクリーン」のように解釈されたと述べている（もう一つ、聖書に由来する荒野のイメージもあるのだが、ここでは楽園のイメージにのみ焦点を当てる）。

実はこのような理解は、聖書のイメージを現実投影すること可能となる解釈である。先の蛇の話も聖書のイメージで語られていたわけだが、ペラーはアメリカに渡った初期のヨーロッパ人たちも聖書のイメージで自分たちの状況を——都合よく？——理解していたという。この点を捉えて、学生Bさんは現実を聖書のイメージに即して解釈する初期アメリカのキリスト教徒たちがもっていた特別な想像力について論じてくれた。わたしがとくにおもしろいと感じたのは、この「想像力」という言葉である。

考えてみれば不思議なことだが、はるか昔に書かれた聖書の神話的内容がその後の世界や人間と関係などあるのだろうか。あると考えたのが初期アメリカのキリスト教徒たちであり、彼らは聖書に即して想像力を駆使しながら、自分たちのおかれた状況を理解しようとしたのである。想像力をたくましくしたのは彼らだけではなかった。



▲ 宗教改革500年を記念したルター訳聖書（ドイツ語）

旧約学者の並木浩一によれば、『創世記』の妻もまた、蛇にいわれて禁止された木の実を見ると、「その木（の実）はいかにもおいしそうで、目の欲を誘っていた。その木はまた（人を）聡明にしてくれそうであった」と思ったのである。「聡明にしてくれそうであった」と書かれているが、ここで妻は「人間的な能力」である「想像力」を使って、そう判断したのである。結果的に、妻の想像力は蛇の誘惑に乗ってしまうように働いたのだが、こうしてわたしは、やはり学生の論文から聖書を人間の想像力と結びつけて読む視点を学んだのである。

■書物とイメージの館

以前、「図書館だより」（vol. 35, No. 2）に載せる原稿を頼まれたとき、わたしは図書館の機能として、次のようなことを書いた。「たくさん本のなかから、ある本（記憶・知）が批判的に吟味され、保存されていく。ときには隣り合わせになるはずもない本があえて並

べられることで、新しいテーマが引き出され、過去の古い記憶が組み替えられていく」。

聖書のイメージには力がある。それと同様に、図書館もまた人間の想像力／創造力を刺激してやまない書物とイメージの館であり、そこには力が宿っているはずである。時間が許す限り、いつでも本を借りることができる環境には心から感謝しているが、本が横に倒され取り出せないほどに積まれている書庫の現状を見て暗鬱たる気持ちになることもある。ぜひ図書館には学生の想像力／創造力を刺激し、現実を多様に解釈できる力を生み出す書物とイメージの館になってほしいのである。

参考文献

ロバート・N・ペラー

『破られた契約——アメリカ宗教思想の伝統と試練』未来社、1998年。

並木浩一

「第一節 罪の赦しに生きる人——原初史の人間像——」『旧約聖書を学ぶ人のために』並木浩一／荒井章三〔編〕、世界思想社、2012年。

「MyLibrary」を使って 自分の読みたい本を申し込もう

自宅や図書館などから「MyLibrary」上の「新規購入依頼」を選択し、
読みたい図書の情報を入力すれば、図書館に自分の読みたい図書が所蔵されます。
是非、「MyLibrary」を利用して勉強や知識を増やすため等に活用しましょう。

申し込み手順

購入希望の申し込みはG-PLUS!にログイン(学内ID・PWを入力)し、「MyLibrary」を選択するか、
北海学園大学OPACからログイン(学内ID・PWを入力)してからお申し込みください。



「新規購入依頼」はココ!

※購入対象外になるもの:(例)すでに図書館に所蔵されている資料・個人趣味的要素が強く、多くの利用が見込まれない資料・
公序良俗に反する資料・特定の宗教や思想等に偏向している資料・漫画・雑誌・視聴覚資料等
※年間10冊まで申し込みができますが、予算がなくなり次第受付を終了します。また、2月～3月の受付は停止します。
※申し込んだ図書が利用可能になると「MyLibrary」に予約棚レコードが追加され、申込者は優先的に貸出を受けられます
(取置期間は予約棚レコード追加から7日間)。
※また、翌朝にはG-PLUS!に「予約資料確保のお知らせ」というメッセージが届きます。

図書館からのお知らせ

日曜・祝日以外の閉館日

入学式:平成29年4月2日(日)

創立記念日:平成29年5月16日(火)

皆さまからの、本冊子に対するご感想を
下記のアドレス宛にお寄せください。

今後の内容充実のために
活用させていただきます。

なお、お寄せいただいたご意見・ご感想に
ついての回答はいたしませんので、
あらかじめご了承ください。

▶▶▶ lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp

編集後記



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

大学という新しい環境にワクワクしている人もいれば、戸惑いや不安を感じている方も少なくないと思います。自動車メーカー「本田技研工業」の創業者本田宗一郎氏は「人間が進歩するためには、まず一歩踏み出すことである」と語っています。

まず第一歩を踏み出し、自分が達成したい目標や事柄を見つけ、挑戦してみましょう。多少の困難もあるとは思いますが、あきらめないで頑張れば、きっと何らかの形で成果として現れ、自分の自信や経験となると思います。

最後になりますが、お忙しい中ご執筆・インタビューにご協力いただいた先生、書店の店主の方々に対し、この場を借りてお礼申し上げます。